

20社・団体参加で研究会

銀行API 実用化提案

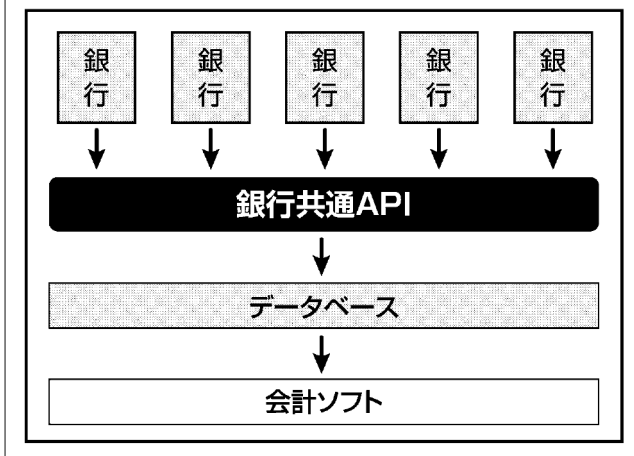
フィンテックガーデン（東京都千代田区、義永洋土理事長、03・6260・9525）は、銀行が管理する顧客の口座残高などの照会や振り替え機能を、フィンテック（金融とITの融合）などの外部企業がシステム利用できる共通仕様「銀行共通APIの標準化」の策定に向けて、研究会を12月に発足する。フィンテック企業や会計ソフトベンダーなど約20社・団体が参加する見通し。事業者間の調整が難航する「銀行共通API」の早期実用化を後押しする。

（編集委員・斉藤実）

フィンテックガーデン OBOOT PAYMENT はフィンテックの技 NT（東京都渋谷区）術者支援やデータ共通 や辻・本郷税理士法人 基盤の整備などを目的（同新宿区）、フリーとする一般社団法人。ウエイジャパン（同千代田区）など名前を連 I 開発研究会」には R ねる見通し。

フィンテック 標準化後押し

銀行共通APIの導入メリット



銀行共通APIとは、まずは、たたき台として預金者の口座を管理する銀行共通APIの仕様の金融機関のシステム「バージョン1」を策定する計画。と、フィンテック企業、銀行、銀行共通APIの標準化（応用プログラムインターフェース）。に関する技術概念（P）と言われる口座

ホワイトペーパー）を国情報取得サービスに限内外の企業に公表するられ、「更新系（PI 考え。さらに研究成果（SP）」と言われる預を紹介するイベントや金振り込みなどの口座情報発信を積極的に実施するとともに、金融情報取得サービスにつ関をはしめ参加企業でいない。

研究会では個人事業者や中小企業などを顧客とする会計ソフトベ

海外ではAPIを活用した多様なフィンテックサービスが登場しているが、国内では共通APIの策定が想定通りに進まず、フィンテック企業は個々の銀行ごとに一つひとつAPIを開発しているの複雑さに、一石を投じる。

現在は金融機関とフィンテック企業との契団体に、銀行共通APIの早期標準化を提案